

## 奥野 雅史 氏 学位審査結果の要旨

主査：螺良 愛郎

副査：伊藤 誠二、岡崎 和一

大腸癌をはじめとした欧米型癌の発生には脂質摂取量の増大とともにその種類も影響する。そこで、42名の良性疾患患者（健常対照）と61名の大腸癌患者の血漿、赤血球膜や皮下脂肪の脂質組成を測定・比較し、大腸癌の発生に対する摂取脂質の関与を検討した。方法は血漿ならびに赤血球膜の磷脂質組成ならびに手術時に採取した皮下脂肪のトリアシルグリセロールの脂肪酸組成をガスクロマトグラフィーにて測定した。その結果、血漿ならびに赤血球膜のエイコサペンタエン酸分画と赤血球膜のリノール酸分画が健常人に比較して大腸癌患者においては有意に低値であり、皮下脂肪ではアラキドン酸分画が大腸癌患者群で有意の高値を示した。以上、脂肪酸組成は健常人と大腸癌患者では差がみられた。ヒトの基礎的データの元となる収集に対し、学位に値すると判断した。